

# 省エネルギー・CO<sub>2</sub>排出削減

## 省エネルギーの推進

国内6事業所の2002年度の実績は、生産量の増加、生産品目の変化、品種改良に伴う試作の増加などの影響で、対前年度4.8%の増加となりました。2003年度も引き続き増産基調にありますが、生産工程の合理化や生産技術の改善を積極的に進め、エネルギー使用量並びにエネルギー原単位を削減する予定です。2002年度は国内6事業所において以下のような省エネ施策を行ない、CO<sub>2</sub>換算で29.1千トン・CO<sub>2</sub>の省エネを達成しました。

### ■2002年度の省エネ施策（国内6事業所）

- ・基幹設備に省エネ装置を導入または省エネタイプに更新・改良
- ・燃料を天然ガスや廃プラスチックに転換
- ・設備の運転条件の変更等
- ・照明や空調などの省エネ活動
- ・輸送効率の改善

また、2003年度には大規模な設備投資を行い、小田原工場に天然ガス対応のコジェネレーション設備を導入します。小田原工場では、コジェネレーション設備が全面的に稼働する2004年度にはエネルギー使用量を2002年度実績の8.6%減とする予定です。

省エネ施策と関連して、CO<sub>2</sub>排出量削減策も進めています。2002年度の国内6事業所のCO<sub>2</sub>排出量はエネルギー増加と同様の理由で、対前年3.8%の増加となりました。削減策の一つとして各工場の自家発電プラント用燃料を、重油からCO<sub>2</sub>排出削減効果の大きい天然ガスに切り替える燃料転換計画を積極的に推進しています。

## 天然ガス転換への取り組み

### 富士宮工場（静岡県）

2003年2月 自家発電プラントの燃料の重油から天然ガスへの切り替えを開始しました。今後順次天然ガス化を拡大し、2010年度には富士宮工場使用燃料の約1/2を天然ガスに切り替える予定です。富士宮工場の燃料転換は、環境gooTVでご紹介しています。  
URL : <http://eco.goo.ne.jp/goo-tv/index.html>

富士宮工場の天然ガス  
転換しゅん工式



富士宮工場の天然ガス対応設備

### 小田原工場（神奈川県）

2003年4月 小田原ガスとの共同事業として天然ガスを導入。  
2004年1月 全面、天然ガスに燃料転換を図る予定。

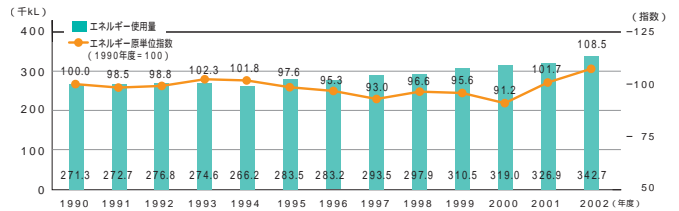
### 足柄工場（神奈川県）

2004年5月 同じ地域内に工場を持つ富士ゼロックスや東京ガスとの共同事業として、ガスパイプラインの施設などを手がけ、天然ガスに燃料転換。

### 吉田南工場（静岡県）

燃料転換に向けて準備中。

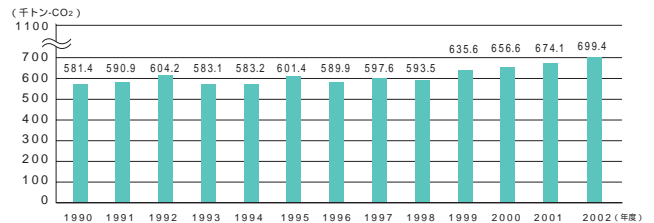
エネルギー使用量の推移  
(富士フィルム国内6事業所のデータ:重油換算値)



使用するエネルギーの内訳（富士フィルム国内6事業所のデータ）

	単位	2000年度	2001年度	2002年度
購入電力	百万kWh	253	247	281
A重油	千kL	163	178	176
C重油	千kL	82	75	79
都市ガス	千m <sup>3</sup>	51	26	5,435
液化石油ガス(LPG)	トン	175	210	162
灯油	千kL	2	2	2
太陽光発電	千kWh	19	20	19

CO<sub>2</sub>排出量の推移（富士フィルム国内6事業所のデータ）



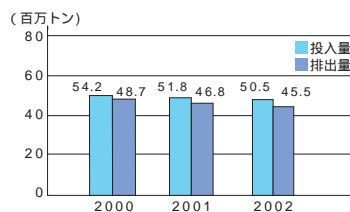
\* 2002年12月に公布された「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」改正案の算定方法、排出係数に基づいて算定した値です。なお、CO<sub>2</sub>排出量は富士フィルムへのコジェネ型発電機導入により、その分電力会社による火力発電量が減るとの考えで計算しています。(CO<sub>2</sub>係数は0.602kg/kWh)

## 水の投入量削減

きれいな水と空気を保つことは富士フィルムの環境保全の基本にあります。生産活動における水の投入量にも万全な配慮をしています。2002年度は工場の生産量は増大しましたが、下記グラフに示した実績を残しました。

富士フィルムグループ グリーン・ポリシーの重点実施事項と目標にも、「環境効率の改善」における環境負荷の一つとして、“水投入量”を挙げており、水投入量削減のための施策を推進していきます。

水の投入量  
(富士フィルム国内6事業所のデータ)



水の循環使用量  
(富士フィルム宮台技術開発センターの事例)

